

事業報告書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

I 事業活動に関する事項

[主催事業]

1. KAWASAKI しんゆり映画祭

■第 15 回ジュニア映画制作ワークショップ 協賛：小田急電鉄株式会社

期間：2014 年 6 月 15 日(日)～8 月 18 日(月)/作品上映 11 月 2 日(日)

場所：日本映画大学、岡本太郎美術館、川崎市アートセンター

参加者数：23 名 (チーム：黄色いペンギン)

川崎市とその周辺に在住・在学している中学生を対象とした映画制作ワークショップを開催。総合指導に日本映画大学講師の熊澤誓人監督、技術指導(撮影)と技術サポートに映画学校の卒業生等のプロが参加し指導を行った。

今年も川崎市教育委員会のご協力をいただき、市内公立中学校全校全学年に参加説明会チラシを配布。2014 年度は川崎市中部に位置する中原市民館でも初めて説明会を実施。説明会回数も例年より増やしたことにより広く参加者を募ることができ、近年で最多の 23 名の参加となった。

また、初の試みとしてオリエンテーションと脚本制作は場所を岡本太郎美術館に協力を仰ぎ、アトリエ等をお借りしたり館内見学をさせていただき、創作のサポートをしていただいた。

完成作品は『未来選択』(23 分)。

作品完成後は川崎市アートセンターのスタッフの指導・アドバイスにより、11 月の作品発表会へ向けて中学生自身で広報物作成(チラシデザイン作業等)を実施。映画制作にとどまらず、その後の発表に至るまで一貫して活動している。

11 月 2 日(日)に KAWASAKI しんゆり映画祭(会場：川崎市アートセンター・アルテリオ小劇場 195 席)にて一般市民対象に完成作品を上映し、参加生徒たちによる舞台挨拶などが行われた。

■第 15 回 なつやすみ野外上映会 共同主催:麻生区

期日:2014年8月23日(土)

場所:川崎市立麻生小学校 校庭

参加者数:1614名(延べ入場者数)

15回目を迎えた、恒例の「なつやすみ野外上映会」を、川崎市立麻生小学校の協力の元、開催した。“トーベ・ヤンソン生誕100周年”と題して、今年は『ムーミン谷の彗星』(72分/1992年)を上映した。

広報活動は、川崎市や麻生区の広報誌への掲載の他、タウン誌や雑誌への掲載、麻生小学校へのチラシ配布等を7月より展開。

当日は夕方より、恒例の屋台コーナーを小学校校庭に開設。飲食の屋台の他、ゲームコーナーなどを設置し、多くの親子が訪れ盛況となった。

新百合ヶ丘をホームグラウンドに活動する市民で構成されている「劇団わが町」による上映前の寸劇の上演や、地元団体「AirGreen」によるスウェーデンの棒倒しゲーム「クツブ」の開催など、地域の他団体との協力も広がりを見せた。

■第 20 回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2014

□ 本祭実施概要

●主 催 NPO 法人 KAWASAKI アーツ

●企画・運営 NPO 法人 KAWASAKI アーツ・映画祭事務局

●映画祭代表 白鳥あかね

●共 催 川崎市、川崎市アートセンター、川崎市教育委員会、日本映画大学、(一財)川崎新都心街づくり財団、昭和音楽大学

●後 援 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム、麻生区文化協会、(公財)川崎市生涯学習財団、NPO 法人しんゆり・芸術のまちづくり

●協 力 イオンエンターテイメント株式会社、小田急電鉄株式会社 ほか

●期 間 10月25日(土)～11月3日(月・祝)

●会 場 イオンシネマ新百合ヶ丘・3番スクリーン(237席)

川崎市アートセンター・映像館(113席)、小劇場(195席)

●上映作品数 23作品

●ゲスト 16名

●総入場者数 2314人(1日あたり平均257人)

●ボランティア 70名(延べ人数)

イオンシネマ新百合ヶ丘と川崎市アートセンター・アルテリオ映像館、アルテリオ小劇場の3会場をメイン会場として開催の7年目となった。20回記念セレモニーや15回目となったジュニア映画制作ワークショップを交えた「子どもと映画制作」シンポジウムなど節目となるイベントを開催した。

□ 広報活動

映画祭がスタートした1995年から実施している駅前でのポスター展を今年も実施した。また、イオン新百合ヶ丘の協力により、小田急線車内から見やすい位置に垂幕を掲示した。

川崎市の協力により川崎駅アゼリアビジョンでの予告編の放映、小田急エルミロードのご協力による新百合駅前ビジョンでの予告編放映を例年通り行ったほか、今年から麻生区の協力により駅前のバスターミナルの柱巻広告、小田急電鉄の協力による駅構内への映画祭ポスターの掲示、小田急バスの協力によるバス内の吊り下げチラシの設置など広報の幅が広がった。

また、例年実施している開催2週間前からのイオンシネマ内と麻生図書館内でのポスター展、あさお区民まつりでのPR活動の他、地元の飲食店と、映画祭の「台湾映画特集」とのコラボメニューの実施(映画祭チケット半券割引)など、地域との連動企画も今年の新しい試みとして実施した。

■ 映画祭 10月25日、26日 オープニング上映 (会場:イオンシネマ新百合ヶ丘)

オープニング上映は、イオンシネマ新百合ヶ丘にて実施。イオンシネマ新百合ヶ丘の劇場内にて映画祭代表白鳥あかねの開会宣言の後、同日「しんゆり・オリーブまつり」共同プロモーションイベントに参加し、エルミロード1階吹き抜け広場に移り映画祭開催の挨拶を行った。

今年のオープニング作品は特集プログラム“いまこそ、台湾映画！”の『GF*BF』。2日間計8作品を上映。10月25日の『私の男』の回では、熊切和嘉監督によるトークイベントを行った。

■ 映画祭 10月28日～11月3日 (会場:川崎市アートセンター)

川崎市アートセンターの映像館、小劇場を利用し「映画、あらたなはじまりの時。」をテーマに国内外の秀作を上映。土日・祝日には上映作品にちなんだゲストを招き、それぞれ担当の市民プロデューサーが企画したトークイベントなどを実施した。チケット販売や観客誘導などの会場運営についても、川崎市アートセンターの協力の元、市民ボランティアを中心に行った。

11月3日にはクロージング作品として「野良猫ロック 暴走集団'71」にて藤竜也さんをゲストにお呼びしてトークイベントを行った。全日程(10月27日の休映日を除く)合計9日間全23作品を上映した。

【特別企画】

□ 11月2日 ジュニア映画制作ワークショップ発表会（会場：アルテリオ小劇場）

「ジュニア映画制作ワークショップ」の完成作品発表会を実施し、制作に関わった中学生と家族の方などのほか、一般の観客も観覧に訪れた。完成作品『未来選択』（23分）の上映後、日本映画大学学長で映画評論家の佐藤忠男さんからの講評、参加した中学生の舞台挨拶、指導講師や技術スタッフ、参加ボランティアスタッフによる講評を行い、今年のワークショップの様子を振り返った。今年は、映画の制作に加え、発表会の内容決めや進行も中学生のアイデアをもとに行った。また、終演後は参加者全員ロビーに出て、来場された観客一人一人に感謝を込めて見送りを行った。（来場者数 174名）

□ 11月3日 <子どもと映画制作>シンポジウム 協賛：日本映画大学

映画祭の柱のひとつであるジュニア映画制作ワークショップも15回目を迎える節目となり、新百合ヶ丘から全国に広まっていった活動の報告・共有・発展の場としてシンポジウムを行った。「北海道コミュニティシネマ札幌」にて制作された『茜色クラリネット』と、「こども映画教室」にて制作された『不思議なあめ』を上映し、活動参加者の挨拶が行われた。それぞれの団体代表者を招いて映画づくりを通してのまちづくり活動、地域文化への貢献、そしてこれからの可能性について語られた。客席は入場無料で解放され、地域住民の方と活動の意義と成果を再認識する場となった。

□ 11月2日 活弁で甦る名画 弁士・澤登翠 『沓掛時次郎』

上映作品は『沓掛時次郎』で大河内伝次郎主演の股旅ものの傑作。1929年に制作された大変古い作品だが、今年は湯浅ジョウイチさんの三味線とギターによる即興演奏と、毎年恒例の澤登さんの名調子により観客を大いに楽しませてくれた。上映後は、映画祭プログラムディレクター白鳥あかねと澤登さんによるトークショーも行い、作品の時代背景などについても理解を深める機会となった。

□ 11月3日 KAWASAKI しんゆり映画祭 開催20回記念セレモニー

第20回目の記念開催につき、これまで映画祭を通して共に地域を盛り上げ、支えてくださった方々をお迎えして記念セレモニーを行った。これまでの感謝をお伝えするとともに、この土地で育まれてきたまちの文化の発展と住民の映画祭に対する期待を実感できる場となった。これまで地域で積み重ねてきたしんゆりならではの文化を改めて顧み、さらに地域内外の方にも映画を通してまちや市民のパワー・魅力が伝わる祭を模索していく貴重な機会となった。20回記念としてアートセンター3F コラボスペースにて「しんゆり映画祭20年のあゆみ」を紹介す

る掲示物を展示し、会場 2F において歴代ポスター原画展、歴代直筆サインの掲示なども行った。

□ 10月28日(火)、11月1日(土) バリアフリーシアター

●保育付上映

10月28日(火)上映の『8月の家族たち』に関して、6ヵ月～5歳までこどもを預かる託児サービスを実施。例年、保育ボランティアグループのジャン・ケン・ポンと提携して事業を実施しているが、今年も保育ボランティアを3名派遣してもらい、映画祭側のボランティアスタッフとともにこどもを預かった。

●副音声ガイド付上映

11月1日(土)に上映した『私の男』に関して、視覚障がい者向けの副音声ガイドを映画祭独自に制作し・実施した。(サービス利用者数・14名)

□動員結果・内容

イオンシネマ新百合ヶ丘と川崎市アートセンター・アルテリオ映像館、アルテリオ小劇場の3会場をメイン会場として開催の7年目となったが、今年もイオンシネマにて2日間の上映を実施。動員数は2314名、秋の本祭での上映作品数は23作品(本祭のみ)、1上映あたりの平均集客数は100名、1日あたりの平均集客数は257人。

本年もしんゆり映画祭ひいては新百合ヶ丘へ多くの方に来場いただけた結果となった。

今年のアンケート回収総数は762通。

来場者の住所は多い順に、麻生区34%、東京都内16%、その他14%、多摩区9%と、地元だけでなく都内や他県からの来場者も多いことがわかる。

また今年初めて来場いただいた方もアンケート集計全体の38%と多く、市民ボランティアの地道な広報と市の広報協力が功を奏したことが窺える。

[企画・制作事業]

1. バリアフリーシアター制作事業

1997年より活動している「バリアフリーシアター制作」は17年目を迎えた。

(1)アートセンター委託制作およびバリアフリー上映の充実

日本映画2本、外国映画2本に対して音声ガイドを制作した。本編を損ねず正しい情報が伝わ

るように、映画製作者や配給会社にも確認を依頼し、丁寧なガイド作りを信条としている。特に音声ガイド付と日本語吹替付きで映画を原音を聞きながら外国映画を劇場で提供する数少ない劇場であり、今年度の外国映画 2 作品は、利用者が最も多く内容も非常に喜ばれた。

(2) 視覚障がい者向けの上映【話題性のある作品の上映】

平成 26 度、映画祭では、2014 年モスクワ国際映画祭で最優秀作品賞、最優秀男優賞 W 受賞した熊切和嘉監督の『私の男』をバリアフリー上映作品として選び、音声ガイド台本を制作、ガイド朗読を収録した。受賞直後で映画祭で上映すること自体が困難な状況だった。イオンシネマでは、ゲスト付き通常上映、アートセンターでバリアフリー上映を実施し、多くのイヤホンガイド利用者があった。

【本年度の制作した作品】

■川崎市アートセンターからの委託制作およびバリアフリー上映協力

『チョコレート・ドーナツ』音声ガイド台本/日本語吹替 制作(収録)

『僕たちの家族』音声ガイド台本制作(収録)

『マダム・イン・ニューヨーク』音声ガイド台本制作/日本語吹替 制作(収録)

『物置のピアノ』音声ガイド台本制作(収録)

■川口市アートギャラリー春の企画展ーからの委託制作(25 年度～26 年度)

『アレクセイと泉』音声ガイド台本・日本語吹替 制作(収録)

■第 20 回 KAWASAKI しんゆり映画祭・制作・上映

『私の男』音声ガイド台本制作(収録)

■ロゴスチャリティー上映会『わが母の記』音声ガイドライブ朗読

■「物置のピアノ」製作委員会からの委託制作(26 年度～27 年度)

『物置のピアノ』バリアフリー日本語字幕制作

2. 劇団わが町

アートセンター創設時より、ふじたあさや中心に企画していた市民のための市民によるしんゆりの市民劇団。

2012 年 6 月に生まれた新しいゆるやかな劇団。劇団員は地域住民の方々、総勢約 50 数名。年齢制限はなく、現在 7～76 歳までのメンバーが所属。しんゆりシアターのラインナップの一

翼を担い、長期的に様々な創造活動を行なっている。

■しんゆりシアター×麻生区文化協会 30周年記念事業
市内巡回公演『わが町しんゆり』

2013年3月に試演、6月に本公演を行なった『わが町しんゆり』を、麻生区文化協会30周年記念事業として麻生市民館ホールで上演した。劇団わが町の第一作目となる『わが町しんゆり』を再び上演した。その企画・制作業務を担った。

公演日時:2014年11月1日(土)14:00開演

■しんゆりシアター×多摩区公演 劇団わが町 市内巡回公演『わが町しんゆり』

2013年3月に試演、6月に本公演を行なった『わが町しんゆり』を、多摩市民館ホールで上演した。劇団わが町の第一作目となる『わが町しんゆり』を再び上演した。その企画・制作業務を担った。

公演日時:2015年1月11日(土)14:00開演

■しんゆりシアター 劇団わが町 第4回公演「ザ・チェーホフ」

2014年8月に劇団第二回目のオーディションを実施し、新たな団員を迎えての新作。劇団わがまちの1作目「わが町しんゆり」を見て、入団の機会を待っていた市民もいた。今回は前回よりも長くワークショップを行い、団員自身が短編を読んで書いてきた脚本を何度も団員自身で体現させながら、創作した作品。経験のあるなしに関わらず、下は小学生から上は70代まで総勢20名の団員が合計50作品以上の脚本を書いてきた。今回は初舞台となった団員も大勢いたが、今回も好評のうちに幕を閉じることができた。

改めて、芸術文化を受け取る側と発信する側の距離を縮め、さらに混ざり合っていくような、この劇団の当初の狙いを、大きく上回る勢いで市民の力が伸び広がっていくのを実感できる公演となった。

[委託事業]

1. あさお福祉まつり

川崎市麻生区社会福祉協議会主催の「第24回あさお福祉まつり(平成26年11月27日 麻生市民館大ホールにて開催)」における映画『忍たま乱太郎 忍術学園 全員出動!の段』の上映に協力した。

2. 東日本大震災に関する講演会「津波てんでんこの教訓から復興へ Part2」

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会、川崎市、川崎市社会福祉協議会ボランティア団体部会主催の『東日本大震災復興支援事業 啓発講演会「津波てんでんこの教訓から復興へ Part2」』(平成27年3月2日川崎市総合福祉センター(エポックなかはら ホール)にて開催)における、第一部映画上映(『遺体～明日への十日間～』)の上映手配・映写業務に協力した。

貸借対照表

平成27年 3月31日 現在

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位： 円)

資産の部

【流動資産】

現金及び預金	1,343,219	
未収入金	1,300,000	
流動資産合計		2,643,219
資産の部合計		2,643,219

負債の部

【流動負債】

未払金	199,120	
未払費用	307,482	
未払法人税等	70,000	
預り金	185,230	
流動負債合計		761,832
負債の部合計		761,832

純資産の部

【株主資本】

利益剰余金		
その他利益剰余金		
非営利事業に係る繰越利益	4,214,161	
繰越利益剰余金	-2,332,774	
その他利益剰余金合計	1,881,387	
利益剰余金合計	1,881,387	
株主資本合計		1,881,387
純資産の部合計		1,881,387
負債及び純資産合計		2,643,219

損 益 計 算 書

自 平成26年 4月 1日
至 平成27年 3月31日

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位： 円)

【売上高】

売 上 高	2,152,231	
広 告 売 上	620,000	
物 販 売 上	128,255	
ジ ュ ニ ア 参 加 費	161,000	
会 費 売 上	270,640	
売 上 高 合 計		3,332,126

【売上原価】

当 期 商 品 仕 入 高	92,662	
映 画 仕 入	2,247,984	
合 計	2,340,646	
売 上 原 価		2,340,646
売 上 総 利 益 金 額		991,480

【販売費及び一般管理費】

販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 合 計		14,057,531
営 業 損 失 金 額		13,066,051

【営業外収益】

受 取 利 息	981	
雑 収 入	16,805	
営 業 外 収 益 合 計		17,786
経 常 損 失 金 額		13,048,265

【特別利益】

川 崎 市 負 担 金	7,650,000	
そ の 他 助 成 金	976,823	
協 賛 金	100,000	
文 化 財 団 委 託 金	1,162,000	
社 会 福 祉 協 議 会 委 託 金	947,120	
ま ち づ く り 財 団 委 託 金	524,000	
日 本 芸 術 文 化 振 興 助 成 金	1,100,000	
寄 付 金	218,926	
特 別 利 益 合 計		12,678,869
税 引 前 当 期 純 損 失 金 額		369,396
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税		70,193
当 期 純 損 失 金 額		439,589

販売費及び一般管理費内訳書

自 平成26年 4月 1日
至 平成27年 3月31日

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位： 円)

給 料 手 当	4,111,475
法 定 福 利 費	60,262
福 利 厚 生 費	343,238
外 注 費	883,409
広 告 宣 伝 費	1,600,326
接 待 交 際 費	45,781
会 議 費	174,126
旅 費 交 通 費	883,984
消 耗 品 費	146,383
事 務 用 消 耗 品 費	182,200
水 道 光 熱 費	43,200
新 聞 図 書 費	250
諸 会 費	37,000
地 代 家 賃	2,666,046
リ ー ス 料	215,489
保 險 料	54,780
租 税 公 課	1,800
雑 費	158,809
謝 礼	2,366,012
制 作 費	82,961

販売費及び一般管理費合計

14,057,531

活動計算書

26年4月1日から27年3月31日まで

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
会員受取会費	270,640	270,640
2. 受取寄附金・協賛金		
受取寄附金	218,926	
受取協賛金	100,000	318,926
3. 受取助成金・委託金等		
川崎市負担金	7,650,000	
日本芸術文化振興助成金	1,100,000	
麻生区委託金	524,000	
その他助成金・委託金	1,923,943	11,197,943
4. 事業収益		
①芸術文化をとおしたまちづくり事業(映画祭事業)		3,061,486
チケット販売収入	2,152,231	
広告収入	620,000	
物販収入	128,255	
ジュニア参加費	161,000	
②文化芸術振興に関する収入		1,162,000
バリアフリー委託費(文化財団)	1,162,000	
映画製作費収入		
その他業務委託収入		
5. その他収益		
受取利息	981	
雑収益	16,805	
借入金債務免除益		17,786
経常収益計		16,028,781
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	4,111,475	
法定福利費	60,262	
退職給付費用	0	
福利厚生費	343,238	
謝礼	2,366,012	
人件費計	6,880,987	
(2) その他経費		
フィルム仕入	2,247,984	
その他仕入	92,662	
広告宣伝費	1,600,326	
リース料	215,489	
地代家賃	2,666,046	
事務用消耗品費	146,383	
通信交通費	883,984	
交際費	45,781	
制作費	966,370	
その他経費等	652,165	
その他経費計	9,517,190	
事業費計		16,398,177

2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
謝礼	0		
人件費計	0		
(2) その他経費			
フィルム仕入	0		
広告宣伝費	0		
旅費交通費	0		
地代家賃	0		
その他経費等	0		
その他経費計	0		
管理費計		0	
経常費用計			16,398,177
当期経常増減額			-369,396
III 経常外収益			
1. 固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1. 過年度損益修正損		0	
経常外費用計		0	
税引前当期正味財産増減額			-369,396
法人税、住民税及び事業税			70,193
当期正味財産増減額			-439,589
前期繰越正味財産額			2,320,976
次期繰越正味財産額			1,881,387

財産目録
27年3月31日現在

特定非営利活動法人 KAWASAKIアーツ

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	196,233	
預金	1,146,986	
未収入金	1,300,000	
流動資産合計		2,643,219
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
車両運搬具	0	
什器備品	0	
その他有形固定資産	0	
有形固定資産計	0	
(2) 無形固定資産		
ソフトウェア	0	
	0	
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
敷金	0	
	0	
投資その他の資産計	0	
固定資産合計		0
資産合計		2,643,219
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	199,120	
短期借入金	0	
未払費用	307,482	
未払法人税等	70,000	
預り金	185,230	
流動負債合計		761,832
2. 固定負債		
長期借入金	0	
退職給付引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		761,832
正味財産		1,881,387